英字新聞小史

浜で『ジャパン・ヘラルド』と改題し、 題された。さらにスコットランド出身の に買収され、『ジャパン・タイムズ』と改 聞はイギリスの銀行家C・リッカービィ シャル・ニューズ』を創刊した。この新 からは日刊紙とした。同年、ポルトガル 週刊新聞として発行したが、一八六三年 ギリス人A・W・ハンサードは同紙を横 発展したため、英字新聞の刊行は長崎か で創刊された。その後、横浜の居留地が 長崎の居留地に住む外国人むけに貨客船 に『ジャパン・ガゼット』を創刊した。 ら横浜に移ることとなった。創刊者のイ の入出航のニュースや広告をのせた英語 人F・ダ・ローザが『ジャパン・コマー シッピング・リスト・アンド・アドバタ 日本で最初の新聞である「ナガサキ・ ・R・ブラックが一八六七年(慶応三) は、そのタイトルが示すように 一八六一年(文久一)に長崎

聞経営を安定的に支えるほどの多数では 外国人の人口が年々増加したものの、新 であった。その最大の理由は、居留地の 居留地に次々と誕生したが、多くは短命 市場をめぐって多数の新聞が競合したこ なかったことである。さらに、狭い新聞 このように幕末期に群小の英字新聞が

英語の読める日本人の増加であった。日

英字新聞がもっとも期待したことは、

本に住む外国人よりも日本人の英語人口

後のことである。当時の東京の新聞界で

であるが、その頃は日本語新聞での英文 は一八九七年(明治三〇)三月二十二日 のビジネスに転身したり、 力からの支援は長続きしなかった。した 買い上げに頼ることもあった。しかし権 がって新聞界に関係した者の多くは、 に支援を求めた。また幕府など日本側の 新聞はイギリスなど経営者の母国の政府 とも見逃せない理由だ。そのため一部の 帰国したりし 他

府から明治政府の時代となっても、構造 っては、 語新聞発行者に転身する者さえ現れた。 『日新真事誌』 (一八七二年創刊)なる日本 日本に定住する外国人の増加ははかばか 自由な権力批判が許されていた。しかし、 新聞発行者は日本人の新聞人がもたない の不平等条約の改正まで保障され、英字 国人の特権は一八九九年(明治三十二) に基本的な変化はなかった。居留地の外 とっては負担の大きいものであった。 ちがいなかったが、それを刊行する人に を円滑に行なうための重宝なメディアに 情報を摂取し、異国での生活やビジネス 本の英字新聞がかかえる宿命ともいえる しくなかった。そこでブラックのように ものであった。居留地に住む外国人にと この脆弱な経営基盤は、有史以来の日 英字新聞は母国や異国・日本の 幕

日本語新聞の片隅に出る英語記事に接す 語とくに時事英語の習得には、英字新聞 聞を手軽に読みこなせる英語リテラシー たのは、英字新聞を購読することよりも、 英語教育関係者にあったことはたしかで に熱心であったからである。だが英字新 の中高等教育は急速に普及し、英語教育 の増加の方が期待された。なぜなら日本 ることであった。 に接することが不可欠であるとの認識は、 をもつ人口の増加は遅々としていた。英 しかしかれらが英語学習者に勧め

この読者のニーズが英文欄の設置の形で 語新聞への接触を通じて得たいとのニー 読者から投ぜられている。英語力を日本つけたら英語の力が増加するとの要望が 事新報』には、社説や記事の重要な名詞 当時ブームだった英語のリーダーの翻訳 たらしい。しかしそれは時事英語よりも、 有力各紙にあらわれだしたのは、日清戦 ズが読者にあらわれてきたことがわかる。 の後に「英語を挿入して之れに傍訓」 りを掲載した。ところがその二年後の『時 に類するもので、初歩の英語の発音や綴 大阪の『此花新聞』が英文欄を設けてい によると、一八八五年(明治十八)頃の まだ確認されていない。岡島真蔵の回顧 英文欄が日本語新聞に登場した最初は を

「英文欄の欠如せるは遺憾なり。冀くは新

(「報知新聞」一九三〇年三月四日)とか

英語研修生の為の英語欄を設て呉れ給へ」

るのみで、英文欄を新設するまでにはい 寄せられたが、新聞社側は投書を掲載す 一八九九年八月十三日)といった投書が に之を設けられんことを」(『大阪朝日新聞』

たらなかった。

『ジャパン・タイムズ』の創刊

『ジャパン・タイムズ』が創刊されたの

最初の試みであったという。 (3)英文欄をつくったが、それは地方紙では 仙台の『河北新報』は一八九九年六月に 民新聞』も同じ頃に英文欄を設置した。 英文欄にあてた。また雑誌『国民之友』 毎日第二面最下段のわずかなスペースを 三十)に内村鑑三を英文欄主筆に招き、 岩周六の『万朝報』は一八九七年(明治 次々と新機軸を打ち出して急成長した黒 に英文の別冊を刊行した実績のある『国 しかしながら、大多数の新聞が英文欄

占領期、厳しいGHQ検閲があったものの、いやその検閲体制に挑戦するかのように、戦勝国のさ まざまなメディアが日本に参入して、新鮮な国際情報と国際感覚で日本のオーディエンスを魅了す ると同時に、在来の日本のメディアも国際社会の情報メディアとして変身しようとした。

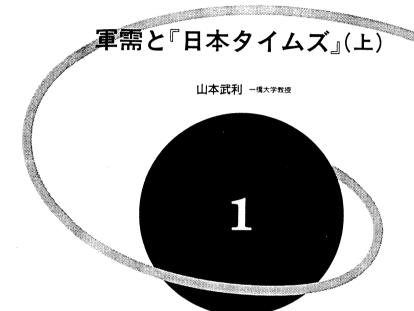
対外的に鎖国をつづけた封建日本は、維新期に欧米列強によって開国を強いられた。これを第一

の開国とすれば、第二次世界大戦で敗北し、戦時中の情報閉塞状況から解放され、民主主義国家と

して国際社会のなかに組み込まれた占領期を第二の開国といってもさしつかえなかろう。

これらのメディアの動態をGHQ資料を駆使して分析するのが、この新連載のねらいである。な お、筆者は「調査情報」(東京放送)1992年8月号~93年5月号に10回にわたり「占領期メディア分析」 を行なったが、それは主として戦争責任を日本のマス・メディアに問うものであった。(山本武利)

第 の 開 国 ح 国 際 情 報 占 頟 期 デ X 研 究 ア 1



1997

53

欄を常置したといえよう。読者層が幅広

エイトの高い新聞であったからこそ英文 朝報』や『国民新聞』は知識人読者のウ を設置するまでにはいたらなかった。『万

く、営利志向の強い新聞には、「願はくは

52



十代目社長 芦田 均 (1933年1月~1939年12月)



二代目社長 頭本元貞 (1911年1月~1914年4月)

藤も公私共に多大の援助をした。つまり郵船の五大会社から出資を得」たし、伊 得にあった点は、従来の英字新聞と変わ **欄登場が話題となっていた。だが創刊の** 同紙は政財界胆いりの英字新聞であった。 三井、三菱、日本銀行、正金銀行、 岩崎弥太郎を説き、その協力を得て遂に 渉外秘書であったし、初代社長山田季治 役者の頭本元貞は当時の伊藤博文首相の りがなかった。それでも、創刊者が日本 ねらいは日本人よりも、外国人読者の獲 であった。「福沢翁は当時日銀総裁だった は日本郵船の元幹部で、福沢諭吉の親戚 人である点は画期的であった。創刊の立

に寄せた投書である。 読者が雑誌『新公論』一九〇五年一月号 はメトロポールホテルの喫煙室で話し合 った「六名の外人を代表して」、築地の一

ンドペーパーとも呼べり。半は外字新

待たねばならぬ。 て万歳々々と応ずる。併し何故の万歳 全くあづからぬ。我等は号外々々と聞 件を予知することが全く出来ぬ。陛下 云はずーを知るを得、明日明後日の事 かは知らぬ。万歳の訳は明日の新聞を しの記事は全く無い。号外の恩恵には へりの記事は有り。明日あらせ玉ふべ 某所に行幸あらせ玉ふ。 昨日あらせ玉 比新聞に依て一昨日の事件-昨日とは 間の切抜、半は東京日本字新聞の翻訳

こは一週分を一線となして日曜毎に発送」らざれども、そは僅々百名内外にして、 而して外国にも多少の読者なきにしもあ と英文を解する日本の学生紳士等となす。 印刷される同紙の「発行紙数は僅々五千 消え去り、古ぼけたれんが造りの社屋で 刊当初の期待は日露戦後にはどこへやら らの転載さえもあった。したがって、 どいものになるとライバルの英字新聞か の記事からの翻訳が早い方の記事で、ひ 然であった。ところが日本語新聞の昨日 ャパン・タイムズ』の紙面を開くのは当 ったので、日本の事情に詳しいはずの『ジ 日本人にかぎらなかった。戦況を知りた い外国人は英字新聞に頼らざるを得なか 其読者は主に在日本の欧米人

日露戦争の速報を新聞に求めるのは、

創

いう。こうした新聞人としての見識は関いう。こうした新聞人としての見識は関 西の欧米人を惹きつけた。 行禁止処分をうけた当時の『大阪朝日新 にあったR・ヤングは、米騒動報道で発 あった。三十一年間、同紙の経営、編集 をもつ英国風フォーマットをもつ新聞で のフォーマットをまねた編集を行なう同

同紙の創刊に贅戒感をもった『大阪朝日 事と全国的な販売網で部数を伸ばした。 記事の翻訳が中心であったが、迅速な記 創刊で食い込んできた。同紙は親新聞の が一九二三年(大正十二)に『英文毎日』 のでしかなかった。外国人読者が期待で きないとすれば、残るのは日本人読者で ャパン・タイムズ』の勢力は微々たるも しかなかった。そこにも『大阪毎日新聞』 明治後期には読者の要望があ

数百の単位で読者を得たと、 「ジャパン・タイムズ」もほぼ同様であ

は減少しないのであった。
日の社会においても英字新聞の必要 者は一人も居なくなり、翻訳量が増加 啓発の必要等を考慮すれば、国枠全盛 るし、旦つ対敵宣伝、中立国に対する ンをはじめ英語による連絡を便宜とす ア諸地域との連絡はインド、フィリピ おいては独、伊等、欧州に同盟国があ をつづけることができたのは、一方に ただ中にあって、なお英字新聞が発行 である。このように英語排撃の風潮の するのに人手は不足であるという状況 外電の分量も少なくなり、外人編集 また大東亜共栄圏と称されたアジ

示す。戦前、『ジャパン・アドバタイザャパン・タイムズ』の毎月の発行部署 終戦直後の一九四五年十一月までの『ジ これら海外での需要増が国内での外人読 東亜共栄圏」での部数増が顕著であった。 日本の動向を知るために日本の英字新聞 者減を補って余りあるものがあった。表 への需要を高めていた。それよりも「大 中立国ばかりではなく英米など敵国も (5ページ)では一九四一年一月から ン・タイムズ』の毎月の発行部数を



ドペーパーと呼ぶ。余の友はサー 我等は比新聞を読んでセコンドハン

「ジャパン・タイムス小史」より

せんとした。

聞が進出し、相変わらず狭い市場で競合 ある。財政的危機に直面した同紙は一九 ただ一つ、外務省の支援があったためで もかかわらず存続できた最大の理由は また日本人へと次々に変わった。それに は苦しかった。大正初期から昭和初期に せざるを得ない『ジャパン・タイムズ』 外国人にも、日本人にも有力な英字新

経営は日本人から外国人、そして 株の大半を外 統一」にあったことはいうまでもない。 (I) 統合のねらいが「戦時下対外宣伝の強化 戦争期に強化された。そして一九四○年 日本をめぐる国際環境が悪化した十五年 資金援助があったためである。この新聞 買収、合併できたのは、外務省の強力な (昭和十五)、同紙が『ジャパン・アドバタ

『日本タイムズ』への改題

界で残った『ジャパン・タイムズ』と『英 国で縮小した東西市場を分け合ったこと 文毎日』が存続できたのは、欧米人の帰 的安定した状態で経営された。英字新聞 千と売込み」、その他のアジア各地でもの販売担当者が「上海に売りに行って何 新聞として部数減少を覚悟していた。そ のメディアとして、軍部の支援で海外と れた新聞は、太平洋戦争時において比較 れにもかかわらず、逆に増加した。 『英文毎日』の編集者は回想する。敵性語 を伸ばすことができた点が大きかった。 た市場にはじめて本格的に進出し、 いう日本の英字新聞ではもっとも弱かっ もあろう。だがそれよりも、「対外宣伝」 軍部の支援ないし強制で統合さ

一八九〇年創刊の前者はB・W・フライ ャパン・クロニクル』の方を愛読した。

うになった。『ニューヨーク・タイムズ』 の英字新聞界で台頭し、他紙を圧するよ シャーが経営権を手に入れて急速に東京 後者は神戸を中心に関西に基盤

これらの有力紙との競合のなかで、『ジ

の首相の芦田均が外務省から移って、 務省が握ることとなった。その際、戦後

九四○年まで社長を勤めた。この支援は

ふうえ

ー」と『ジャパン・クロニクル』を

三四年に株式会社となり、

大陸の前線でも読まれていた「ジャパン・タイムズ」。

外国人の読者は本モノの英語が見られ

る『ジャパン・アドバタイザー』や『ジ

の「将来の発達を希望」する声が各紙誌の「将来の発達を希望」する声が各紙誌の「利当初、条約改正をめざす日本への った。特に外国人の評判は低かった。次 設定するなどのサービスに努めた。しか 新聞に比べて二割引の価格を学生読者に で高かった。また同紙自身も、他の英字 し期待に反し、同紙の声価は高まらなか 条約改正をめざす日本への 日本

った英文欄を大正末期には新設して対抗 るのを知りながら、無視して掲載しなか

部数

は最高時で六千部を超えなかったし、『ジ ャパン・クロニクル』は三千部に達しな

第二の開国と国際情報 占領期メディア研究

同紙の記事は読む者を腹だたせた。

ったことがある。

さらに、

ピーク時でも一万前後にしかならなかっ 関するニュースを知ろうとした」。 十倍に厚みを増したことが最大の原因で た外国人の層が、 の急増の背景にあった。しかし戦前では た。彼らはむさぼるように本紙のバック・ けつけた所はニッポン・タイムズであっ えば「アメリカの新聞特派員が第一に駆 あった。軍関係者ばかりではない。 この占領軍の上陸で数 たと

盟は、 年十一月一日、同盟通信社(同盟)は解体 地で情報ネットワークをほぼ独占した同 「日本のみならず中国、東南アジアの占領 をつなぐ最大のパイプ」となった。同紙増加するのにつれ、同盟が日本と世界と 日本との正式な国交関係を断絶する国が ッチせんとした。 盟のニュースを通じて日本の動向をキャ ロパガンダ活動を強めた。世界各国は同 ラジオ放送が聴く者をいらだたせたよう 略のなかで同じ位置づけのメディアであ かったとはいえ、 はこの同盟ほどの大きな役割を果たさな 『日本タイムズ』がブームにわいた四五 共同通信社と時事通信社になった。 日本に敵対する国々や陣営へのプ 連合国側に向けられた同盟の英文 しかも戦争が拡大し、 日本のプロパガンダ戦

の役割、 それどころか軍機関紙『スターズ・アン となった。だが に戦中の足跡が洗われた。 とになった。 よって解体させられ 紙と同盟への事前検閲実施の契機となっ HQの目にとまったのは、 なっていたが、この関連記事で最初にG メリカ軍の暴行の報道を各紙ともよく行 比べ検閲は容易であった。 ことに同紙は英文のため、 ンダ出版物の没収もその一端であった。 事前に検閲に提出すべしとの命令に従わ た。 あった。これが九月十五日から始まる同 あれ、 紙にもまもなく見舞う程度の検閲でしか からである。さらに同紙は全ての記事を うに検閲体制の準備に時間がかからなか なかった。同紙は同盟ほどの大きなメデ したのは、英文のため、 いと見なされたのであろう。 ィアではなかったので、戦争責任は小さ ところが『日本タ ・ストライプス』にない一般紙として ちなみに他紙の事前検閲は十月八日 機能が評価され、歓迎されるこ 厳しいとはいえなかった。他 だがこの処分は特別に同紙だ もちろん同紙も他紙と同様 九月二十日付が発禁処分 占領初期、 先のプロパガ 英文の同紙で 日本語新聞に なにはとも

> 語の新聞 パン・タイムズ』は一九四三年一 出していた (CIS-4359)。 月五千七百部、 上でくり広げるばかりでなく、 ものであった (CIS-4360)。 「大東亜共栄圏」 希望する個人、

らした。 近かったが、戦時下には徐々に部数を減 かった (CIS-4359)。 両紙を合併した当 『ジャパン・タイムズ』は九千部に なお『英文毎日』も戦前一万部の 八千部台を維持していたことがわ しかし四十三年三月の六千五百 ムで、 終戦時でも開戦時を上

1945年

9.705

10,158

10,341

10.155 9,512

8.249

8,314

8.244

14,027

36,193

46,552

(CIS-4359)

月刊誌『ニッポン・タイムズ・レ として『ジャパン』が見なされた 「に『日本タイムズ』に改題した。 が一九四三年から翌年にかけて出 十三点の同紙出版の戦争物のうち **亜共栄圏で最も影響力のある代表格** するためであったと述べ、自らを 力の英字新聞利用による日本転覆 の二紙合併を回顧し、この合併は ある。その改題当日の社告は一九 は一九四四年三月~四五年四月 同紙は戦争肯定のプロパガン 国内ではなく占領地の専門 GHQにより没収対象と と賛美している。それ 物へと傾 出

> 月特集されており、 たCISによると、 体に三百部が配布された。同誌を分析し 止の勧告が出ている (CIS-4360)。 イギリスのインドでの暴政ぶりなどが毎 アメリカの野蛮性、

政府、 で、 府から全面的に支援されたことはたしか 国をいらだたせる新聞となった。これら 同紙は英文の最有力のメディアとして、 の活動の費用は本紙の活動費ともども政 このように、戦時末期の改題を契機に まさに軍需が同紙を支えたといえよ 軍部のプロパガンダを代行し、 全号の没収と発売禁

# 占領初期の部数急増

た。 駐軍が東京を中心に居住し、 数急増となってあらわれた。 年十一月までの短期間に五万部に迫る部 ができた。 加と経営好転という黄金期を迎えること で『日本タイムズ』は史上空前の部数増 喜さまざまの進展が見られた。 このなか また同時に新しい時代の幕明けでもあっ ってつらく厳しい時節到来であったが、 ちろん敵性語から ある同紙の購読に走ったためである。 一九四五年八月の敗戦は日本国民にと メディアの世界でも、 家族らが東京で唯一の英字新聞で それは表1が示すように、 "友好語" 敗戦直後、 へと変わっ その軍人 数十万の進 悲 同

ることはなか はG!	-,																											
	4			朝日新聞						75,000									22,500									
とは	<u>Z</u>		-	毎	日新	NO.						1	52,3	29								47,9	54					
か	C		-	読	売報:	ĦD.							71,8	30								23,0	69					
った。	H Q E		-																							(	(CIS-	913)
ニュー	外国特	家に毎	に刊行	ピュー	同紙の	された	十一点	された	斜した	版活動	ダを紙	と同時	の外国	「大東西	を回避	外国勢	四〇年	ためで	敵性語	月一日	『ジャ	部数を	かる。・	まわる	は一万	部がボ	らした。	近かっ

『ジャパン・タイムズ』の発行部数(単位:部)

1942年

7,136

7,755

7,872

7.432

7.364

7,285

7.078

6,903

6,886

6,706

6,998

6.746

1941年11月

840

1941年

8.851

7.669

7,511

7,753

7.589

7,583

7.966

7,924

7,496

7,222

7,255

7.720

表2 新聞用紙配給量(単位: 連)

1.00

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

日本タイムズ

1943年

6.622

6,737

6.528

8.326

8.375

8.393

8.594

9.860

9,772

10,046

9.959

9.990

1944年

9.993

9,789

10.433

10.237

10,609

8,796

9,674

9.378

9.307

9,273

9.635

9.554

1945年11月

1,600

からだ。 **-スが世界に流される懸念があった** 7派員を通じて、 占領軍に不都合な

た英語への日本人の関心の高まりも、

開戦時に比べて大幅に削減されるなかで 4359)。また、四十五年十一月の同紙の用 銭という好決算を出している(CIS-ンス・シー 同紙の活動を優遇していたわけである。 二倍近い増配となっている。 紙配給量は表2が示すように、 全国紙が こう述べている (CIS-913)。 表2のGHQ資料はさらに同紙について HQは用紙配給権を日本政府に命じて、 四十五年九月三十日現在の同紙のバ 九月の利益は五万三千百八円六十五 日本タイムズは東京の唯一の英字新 トによると、 資本金は十万円 つまり、 G

需の規模は同紙のみならず英字新聞史上 の占領軍の進駐で伸びた。ともに軍需で 本軍の侵略で伸びた同紙は、敗戦と同時 点ではほぼ一致する。ともかく戦中は日 の分で差はあるが、四十五年十一月の時 ある点では同じである。だが、後者の軍 ここに出た数字と表1の数字は、戦中

注

(-) 福良虎雄編「大阪の新聞」 一九三六年、

(2) 「時事新報」一八八七年一月八日の「新聞社」なる投書、これに賛成する投書が

(3) 「河北新報七十年史」 | 九六七年、二十七ペ

「ジャパン・タイムス小史」一九四一年、 六ペー

4

。)「学生タイムズ」一九四六年十月一日)「女学雑誌」一八九七年四月十日号の」「女学雑誌」一八九七年四月十日号の広告 二ページ。 一九四六年十月一日 コページ。

<u>8</u> 7 6 5

かられる。

10 9

ジ参照

前掲「ジャパン・タイムス小史」 七十一ペ

Ξ

(1)「毎日新聞百年史」一九七二年、二九一ページ。

落した。 ていた。

現在の毎日の発行部数は四万 ところが戦時中に六千部に下

八千で、その約半分は占領軍に売れて

14 <u>13</u> 聞で、戦前には平均一万五千部発行し

一九九三年一月号山本武利「同盟通信社の解体」「調査情報」 十六ページ。

<u>16</u> 15

GHQ/SCAP Activities of the Occupati Vol. V Civil Liberties-Part "History of the Nonmilitary f the Occupation of Japan" 4, 11-12 PP

 $\widehat{\underline{I}}$ 

56

報

政府からの自立

れを機に政府からの資金援助や政府の株

## 軍需と『日本タイムズ』(下)

山本武利 一橋大学教授

Nippon Times

TOKYO, THURSDAY, MARCH 1, 1949

RECHIORNAGE Russian Airman HOLLAND ACCUSED HOUSE OKAYS BILL America Wants Japan

### である。その九三・六%が松本忠雄会長は十万円であるから、一株五百円の額面は十万円であるから、一株五百円の額面 式所有は新聞にたいして許されなくなっ たことを意味している。 独立採算で経営しなければならなくなっ 表1 『日本タイムズ』の株主、所有件数 表1は『日本タイムズ』の一九四六年 から見ると、新聞は政府から自立し、 権限を失った。この一連の動きを新聞 1946年7月現在 その直後の言論関係法令の徹廃と合 政府は新聞を支配、統制する方法 松本忠雄(会長) 15 東ヶ崎潔(取締役編集局長) 15 若松甚太郎(取締役) 15 河合一雄(取締役) 芝 均平(監査役) 村田五郎(監査役) 天城篤治(取締役) 5 稲原勝治(取締役) 洋ガミウチシロウ おしかべる 20 クロズミシンゾー っている。② ハヤカワスエヨ ナカムラノブロー 3 ニヘイタツオ 2,000

### 東2 新聞用紙配給量(単位:連)

di.

ACC MIDINIMADONIA									
	1941年11月	1945年11月							
日本タイムズ	840	1,600							
朝日新聞	75,000	22,500							
毎日新聞	152,329	47,954							
読売報知	71,830	23,069							
		(CIC 013)							

監査役の芝は四一年まで『シカゴ・ 二世か、アメリカ生活の長い、教ズ』の幹部は、アメリカ生まれの トリビューン』の日本特派員であ

社員であろう。松本の公職追放のため、 年のGHQ資料は「一九四七年三月、同崎の名儀に変更されたと思われる。四八 四七年一月から東ヶ崎潔が社長となり、 松本の所有株は(実質は外務省株)東ケ の株は現在同社々長の名儀で所有されての株は現在同社々長の名儀で所有されて六十七株を外務省から買戻し始めた。こ 紙は政府所有の二千株のける 買戻しが実行されたことがわかる。 Q命令が即時に実行されていないものの、いる」と記している。四五年九月のGH 一千八百

貿易業に従事していたが、在日中に開戦 学で博士号をとった後にカリフォルニア 長を務めた。主筆の河合はハーバード大 社した。かれは一九五六年まで十年間社 となり、帰米困難となったため同紙に入 カリフォルニア大学卒業後、アメリ 年に同紙に入った。編集局長の村田はホ 本研究のため在日中に開戦となり、四二 大学の教授となった学者だが、同じく日 甚太郎 豆雌 取締役 業務局長兼経理部長 社長東ヶ崎はアメリカ生まれ 編集局長 村田 五郎 吉野 伊

ルニアの二つの日系新聞の主筆を した後に、三三年に同紙に入った。 イッテヤ大学を卒業し、カリフォ

(CIS-3841)

日本に居住し、日本の事情をよく知り、 な人々であったから、 会にある」といわれた。の最終的な決定権は常に社長よりも取締 経営の指揮を行なった。また

# 占領軍情報重視の編集

係の読者のウェイトが高かったので、Gら三十%の割合となっている。占領軍関ら三十%の割合となっている。占領軍関 業員数は百五十一人であるが、編集部門 は四十四人と、経営部門と同数の配置で 国内のニュースは、共同通信社と時事通 信社から五十%、ラジオ・プレスから二 HQは同紙に積極的に情報を提供したし、 四六年十一月の『日本タイムズ』の従 しかし独自の取材はごく少ない。

若松 者の活躍が目立ち、司令部方面から当時 れる。これらの2世は終戦と共に、はじ 好意を持たれた一因をなしたものと見ら って終戦直後からタイムズには2世出身 めて軍に従って日本に来た人々と異なり、 とができた」。かれら幹部は民主的に編安定期において最も有用な働きをするこ しかもなおアメリカ人同様に語学に堪能 戦後の混乱期から

取締役 業務局総務兼普及部長

TO ALTER SUGGET

TO ALT



いる。そして日本を民主化させるのが同 反対の意見を述べることがあると記して どき批判しているし、各党にたい あと、同紙の編集者は政府の動きをとき GHQ資料はこの発言の正当性を認めた ないことである」と語っている。そして ズの編集方針はどの政党にも好意を寄 とのインタビューで「現在の日本タイ 東ヶ崎は四六年八月十日のGHQ関係者 色を一掃することとなった。したがって た。 ーズ、 ユース・サ スが入ってきた。 れらの通信社経由で外国通信社のニュ 他にサン・ニュース・フォトである。 約通信社は国 政府からの自立は同紙から政府機関紙 ·チャーズが落ちている。(CIS-3067) ただ四七年十一月二十四日の同紙の Qへの提出資料では、 ニューヨー の六社の外国通信社と契約してい ビス)、キング・フィ (インター チャーズ・サービス、 <del>'</del> キング・フィ しても

配給を優遇されていた。 表2に示されるように、 『英文毎日』が二ページ体制であった

外国ニュースである。 内通信社では共同、 また同紙は単独でじり ヘラルド・トリビ 四七年の ナショナル・ニ 同紙の契 ーチャ とき、

紙の編集活動のねらいであると結論づけ (CIS-4513) 同紙は川紙の

他の日本語新聞

でなく、 の資料はこう述べている。 信に費されていた。四八年一月のGHQ している。通常のページは主として外

二%を使っている。この数字は今日で も同じだろう。 全紙面の十一・二%を外信に使って た。これに対し、日本タイムズは四一・ ス紙面調査では、大都市新聞は平

ソ連を露骨に批判しているた

アメリカ漫画を掲載してい た

の提出分では、

朝

をしなくてもよかったからである。 する必要があった日本語新聞のもつ苦労 にできるだけ沢山の情報を凝縮して掲載 ができたのも、用紙が潤沢で、 ッフが、アメリカ人読者のためにとった カの新聞の事情に詳しい同紙の編集スタ なスペースを使っていた。これはアメリ しは派手で、フィーチャーや写真に大き 全体的に同紙は日本語新聞に比べ見出 ービスである。そしてこのような編集

九四六年 八ページのタブロイドを週一回 「倍の四ページを毎日出すばかり

王三月のPPBのニュ りで

狭い紙面

あるいはこれもソ連への配

カ

- ド違反と見なされた

となったものだ 部)に提出され、 四七年十月二十二日にCCD(民間検閲 たのは、 間の場合とて同じことであった。図1は 同紙の編集スタッフが一番神経を使っ 検閲であった。これは日本語新 (メリー サプレス ランド大学プ (掲載禁止)

安い婦人靴でも百五十六ド

ルもする。こ

信じませ

労働者の大きなイ

六・五ドル) にすぎない。 ところが一番

るソ連の労働者は週給二百ルーブル ンゲ文庫所蔵)。"労働者の天国。とい

われ

の悲惨な現実を『信じますか、

またパページのタブロイド

は主として によってやや中立的な方向へ押し戻され 虚からかもしれない。ともかくアメリ のであろう。 の理由はアメリカ軍の動きを伝えている ため、プレス・コー 掲載禁止となっている。これはINSや 鮮人の共産主義者の検挙を伝えた記事が 虚からであろう、 UPが伝えたものである。この掲載禁止 アメリカ第八軍による神戸の中国人、 た理由は、 信されたものだ。これが掲載禁止となっ の記事はキング・フィーチャーズから配 ラスト入りの連載ものの一つである。こ 辺倒になりがちな同紙の編集がGHQ んか。と問いかけた、 四八年四月二十六日付 ソ連代表部を刺激しかねないとの配

# 領軍依存の経営

**載後にGHQ内部で問題とされた広告が** ある(図2)。これは四七年十一月六日に 検閲に引っかからなかったものの、

たといっても過言でない

なかった。 聴者(テレフォン・モニター)などを担 されてしまっては、 っていたらしい。ともかく、 和辞典や参考文献からも検閲で削除とな Detachmentの約語」といった表現が英 ると、「CCDはCivil Censorship すべしと記されている。なお同資料によ テレフォン・クラークというように表現 テクニシャン、テレフォン・モニター する場合にはセンサー・テクニシャンは 策と合致しない」と論議され、 の公表は民間検閲部の活動を守秘する政 である。GHQ資料では、「この種の求人 当する外国人を募集せんとした求人広告 門家(センサー・テクニシャン)、電話盗 『日本タイムズ』の広告欄にのったもの GHQの福岡、 事後処理に走るしか 東京地区で、 紙上に掲載 今後掲載 検閲専

Ex-Minister Succumbs

Basan Visite at leaver in

State Joseph Monte and in

The Control Monte an

AAV

Automate

So over reterrance

Automate line Date

From Good, LTD.

Confidence

Confid

TABLE DECORATIONS, DWARF TREES, CORSA-GES, BOUQUETS, VASES

GOTO FLOWER Co., Ltd.

Furniture

高い利益をもたらした。その販売収入は

当時、全体の部数の五分の三を占める占

領軍から得ていた。

TOILETRIES

MEDICINES

NUTRIMENTS

TOOTH POWDER

XMAS-

MATSUSHIMA OPTICAL CO.

EYE CLASSES and BINOCULARS High Class Cameron CAMERA DEPT. GINZA Jupane Chanes Trick Krobachi (M) 2016

いた。 では見かけない毛皮、 は無縁なぜいたく品の広告が大きく出て スペースに余裕があったので、 の広告が目立った。記事と同様に広告も が多かった。 には、アメリカ人中心の求人・求職広告 このような広告は英字新聞のみに起こ がちな問題であった。当時の英字新聞 消費文化を反映していたのは本紙であ 『日本タイムズ』には、 当時の新聞界でもっともアメリ とくに占領軍関係の読者の カメラ、 日本語新聞 日本人に 家電製品

Enact Taigin Marder Tabe Securities of the Treams Sans Surger for surface for sharper of private or substant sharper of private or surface parts. Provider Sans Sans

Try and Stop Me

-By BENNETT CERF

BETTER PICTURES are YOURS

THE MAKEA With Cannel

THE NAME A WITH CANNEL

THE MAKEA WITH CA

広告欄には、毛皮、カメラ、家具など当時の日本人には無機な品が並ぶ

RADIO HICHLICHTS

WASHINGTON

上まわる販売収入が、約五十万円という べると高かった。その広告収入を大きく 支払い、 販売、 広告収入の比率は、当時の大新聞に比 している。 のあがらなかった数年間分を帳消しに は百二十一万五百五十四円である。 販売費、税金を合わせたこの期の支出 の六倍である。原材料、 五十二円になる。 九四六年一月三十一日までに、 日本タイムズは現在、 広告収入の合計は百七十万五千 印刷費、広告(同社出稿分)、 一九四五年二月一日から一 販売収入は広告収入 賃金 戦時中の利益 通信社 同紙の

見では、配達人はタイムズの読者から を面倒がるからである。東ヶ崎氏の 語新聞に比べ少部数の英字新聞の扱 ら各地で英字新聞を読む人はごく少ち 東ヶ崎編集局長によると、宅配率を高 日本新聞連盟によって宅配されている 七千部が東京の立売で捌け、三千部が 部は毎日占領軍に届けられる。約一万 めることは非常にむつかしい。なぜな 日本タイムズの五万部のうち、 各販売店では部数の多い日本 ″うっかり忘れる =:

紙面を埋めねばならなかった。掲載され

や母国から郵便で届く新聞からの翻訳で はできなかった。したがって日本語新聞 どを読者からの購読料金でまかなうこと

わけ国際通信社との契約費、特派員費な しながら、そのために必要な資金、とり 情報の収集と分析に熱心であった。 のニーズを獲得すべく、

ほぼ

表3 『日本タイムズ』地区別部数

1948年9月9日現在

1,581

1,356

1,044

840

594

559

465

454

451

329

123

部分は海外情報ではなく、

2,987

51,144

34,407 5,954

東京 神奈川

大阪

愛知

京都

福岡

神戸

静岡

埼玉

長野

広島

海外

ät

その他

北海道

立売を加算した東京地区の販売部数 資料にあがっている立売一万七千部は、 **経費は僅少だった。さらに経営効率がよ** なされた。販売店を通さないため、販売 一括支払われることであった。なおこの かったのは、購読料金が日本政府経由で よいってのため、 東京の占領軍への配達は本社から直接 占

る部数も少ない。またこの資料によると、を築いていたためである。海外に送られ 西に弱いのは『英文毎日』 占領軍部数は一万部となっている。 た各地区の販売部数は表3のようにな 一九四八年九月に本紙がGHQに届け 相変わらず東京の比率が六十七%と 神奈川と合せれば七十九%になる。 心の新聞である。 が強固な地盤

> ました。 黄金期を迎えたわけです 広告も急に増えて、ニッポンタイムズは めるという利便が大いに買われました。 通達が、ニッポンタイムズなら原文で読 界でもニッポンタイムズが必需品になり が伝わると、ニッポンタイムズの声価は の高官、中でもマッカーサー元師が毎日 で日本人の読者が増えた。「占領軍司令部 反映しだしたのであろう。それを補う形 の縮小と経費節減の動きが新聞購読にも 軍は全体的に部数減少の傾向にあること ますます上がり、日本政府各機関や経済 ニッポンタイムズを読んでいるという話 がわかる。この頃からはじまった占領軍 続々と出される占領軍司令部の

領軍関係部数は含めない)であろう。

近づいたと思われる。 少なかったが、四八年頃になると五割に人読者の比率は占領初期には二~三割と 『日本タイムズ』読者全体に占める日本 その日本読者の大

(CIS-3067) 表4 『日本タイムズ』の発行部数 1946年3月 46.552 1947年5月 48,000 1947年7月 50,000 1948年7月 50,000 1949年9月 51,921

ある

場でひしめきあった。新聞の経営者や編

した。とくに市場の大半を占める外国人 集者は自紙の存続のために懸命の努力を

日本情報や国際 しか

字新聞の市場は狭隘だった。それにも

加がはかばかしくなかった。そのため英 つ英語リテラシーの高い日本人読者の増

かわらず、次々と英字新聞が誕生し、

各種GHQ資料による

給量が示唆するように、全国紙に比べる 支配力をかちえた。しかし表2の用紙配 とも英字新聞の業界ではかなり強い市場 安定横ばいであることがわかる。少なく である。敗戦直後に急増した後は、 されていなかったことを示している。 表する国際的な情報メディアとして認知 表4は一九四六~四九年の同紙の部数 ったことは、 らの購読者がきわめて少なか 補完しだした。しかし海外か 占領軍読者の減少を多少とも に同紙を求める読者も漸増し、 いはアメリカ情報摂取のため には、英語学習のため、 に接触した。ただし占領末期 HQ情報を求めるために同紙

同紙が日本を代

タイムズは東京紙といって

# 占領期の位置づけ

聞はついにできなかった。外国人の経営

この悪循環を断つことは戦前の英字新

する新聞には、維持、活動費の一部を母

るものであった。

と日本新聞界全体でのその勢力は微々た

充実させるために不可欠な販売収入は増 のは当然であった。こうして報道機能を ラシーをもつ者なら、日本語新聞に走る る情報は陳腐なものになる。日本語リテ

加しなかった。

増加と英字新聞の情報に関心、 れなかった。とくに日本在住の外国人の 知らせ、日本語新聞の創刊を促した名誉 けて誕生し、新聞という存在を日本人に し英字新聞を育てる社会的基盤が形成さ ある地位を新聞史上でもっている。 英字新聞は維新期に日本語新聞に先が 欲求をも しか

読者も増加した。一九六五年の同紙自身 ネスマン、旅行客が増えたし、日本人の る。さらに国際社会化が進んだ現在、同四・三% 日本人四五・七%になってい の調査によると、同紙の読者は外国人五 興味あるところである。なお一九五六年 紙の国籍別読者構成がどうなっているか さらに国際社会化が進んだ現在、

をえなくなった。

しかもその時期は日本

には外務省の資金に全面的に依存せざる の創刊時の援助資金を食いつぶし、ついて、ジャパン・タイムズ」も財界から 日本人の手で創刊され、外資が入らなか 国の政府、大使館に頼るところもあった。

政府、軍部に好都合なプロパガンダのメ の海外侵略が強まった時期であったため 資金でライバルの外資系有力二紙を買収 うやく命脈を保った。 それどころか政府 はじめて築くことができた。 し、『英文毎日』とともに安定した基盤を つまり政府の御用新聞としてよ

ければ、 ずであった。 HQによって禁止された。占領軍がこな あった。 軍での大量の集団的購読の形での支援で 資金援助を行なったわけではもちろんな 支えることとなった。GHQが直接的な 道具として『日本タイムズ』をただちに 府の代りに権力を握った占領軍が支配の 側からなされた。さらに軍機関紙『スタ 紙への積極的な提供サービスも、 うになった。GHQ資料も一九四八年に ぶにだっこの同紙が、史上はじめて自立 こと大であった。こうして占領軍におん 同紙への委託も、 ーズ・アンド・ストライプス』の印刷の 敗戦とともに政府からの新聞援助がG 次のように同紙を評価している。 した形の経営を維持することができるよ だが戦争責任の追及の回避は間接的 その時に倒産の憂き目に合うは また読者が望むGHQ情報の同 一番効果的だったのは、占領 ところが幸いなことに、政 経営安定にプラスする G H Q

一九四〇年から降伏まで、『日本タイ

読者を惹きつけ、離さなかったことは否 場仕込みの英語の文体とジャー である。同紙の編集上の実力、とくに本 「終始変らぬ賞賛」ぶりを認めているほど で、同紙を道具に使って、国際関係に ムズ』は外務省のまぎれもない代弁者 としてのセンスの良さが、多数の占領軍 おける日本の立場を伝える好都合なプ 支持はえられなかったであろう。 示していたら、おそらく占領軍の援助や たような自立した姿勢を占領軍に対して めない。しかし同紙が政府や各党に示し 針をとれるようになった。同紙は政党 終戦とともに、同紙は自主的な編集方 ロパガンダが外国にむけてなされた。 にあて、それへの終始変らぬ賞賛を示 や政治団体とは結びつかない方針を選 読者の大多数が占領軍の人員であると ズ』はジャーナリスティックな技術で されている。英語の新聞『日本タイム している。外国ニュースはよくカバー ペースを占領当局の方針や政策の解釈 んでいる。同紙は異常なほど大きなス GHQ自身でさえ、同紙の占領軍への いう事実は、その影響力は一部の日本 その論説の文体も信頼できる。同紙の 人に限られていることを示している。 一般の日本語新聞より優れており、 ナリスト

占領期、『日本タイムズ』は史上空前の

部数と利益を満喫できたが、それはアメ 方針が変わったり、占領軍が日本から去 だったからこそ可能であった。占領軍の リカ人による日本占領という異常な時期 の末頃から占領軍読者の減少というきざ 態に戻るおそれがあった。実際、四八年 れば、その経営はかつての昭和初期の状 させた。 まっていた。そして日本の独立はアメリ て占領軍経費削減という財政的理由で強 なるにつれ、占領軍の同紙離れが主とし しがあらわれていた。さらに占領末期に カ軍読者を激減させたし、GHQ情報の みを同紙に求めていた日本人読者を減少

同紙は題字を『ジャパン・タイムズ』に

命的ともいえる脆弱な経営基盤の安定化 の幹部が千載一遇の好機として捉え、宿 できた。 代化を図った。そのため日本の独立直後 ど独自の報道機能の充実、印刷設備の近 の通信社との契約の強化、 いう特需はいずれ去るとの認識で、海外 に努力したことは見逃せない。占領軍と の経営危機をなんとか乗り越えることが しかしこの占領期を『日本タイムズ』 特派員派遣な

文毎日』のような英字新聞を発行しだし 本の国際社会化が進み、軍人に代るビジ った。しかし経済の高度成長とともに日 その後『朝日新聞」、『読売新聞』が『英 市場は戦前期の厳しさに舞い戻

- (一) CIE "A Brief Survey of the Daily Press in Japan" 1948.11.10, CIE(C)-1031 (2) 「日本新聞年鑑」昭和二十二年版 | 1111
- り」一九六六年 八十八ページ (3) 長谷川進一編『ジャパンタイムズものがた
- 5 4
- 7 6 り」 1九六六年 八十八ページ ) (一)と同じ n) (ST Hippon Times Publishing Com-pany" 1946.11.21, CIS-4513 p PPB "Hippon Times" 1948.1.8, CIS-4359 ) PPB "Advertising of Censorship Vacancies" 1947.11.14, CIS-4359
- 10 9 8 (5)と同じ
- ムズを知る本」一九八二年(三十四ページジャパンタイムズ出版部編「ジャパンタイ
- 前掲『ジャパンタイムズものがたり』(-)と同じ

57

第35卷第3号通卷第304号 1994年5月15日発行(灰月

MAY 5 - 5

## 神堂 報

広告・第50世紀(1994年5月15日発行(福月刊) 明定人士紀末道 発行所刊達成金社開報空 〒101 東京都千代田区神田公司3

### ™成功するサイン・デザイン

第2特集 NPO - 社会貢献の新しいかたち 新連載 第二の開国と国際情報 - 占領期メティア研究/山本武利 テジタル探検隊/2慶応義塾大学湘南藤沢メティアセンター

